

講義名	音楽療法概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
校地	鈴鹿大学短期大学部		
単位数	2		
科目種別	専門教育		
対象学科・年次	生活コミュニケーション学科1年		
必須/選択	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
助教	◎ 辻 有里	短期大学部

科目区分等（科目区分、単位、対象学年、必修、選択の別を含む）	専門教育 2単位 生活コミュニケーション学科1年 選択
講義テーマ	音楽療法とは何か。日本の国内外で、医療、福祉、教育現場等、様々な領域で音楽が療法として活用されつつある。音楽の有用性とその方法について、国内外の音楽療法理論と実践事例を学びながら理解していく。
講義の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽療法の概観について理解し、音楽療法の現場や対象者について理解することができる。 2. 音楽が持つ機能を理解することで、音楽療法での効果的な使い方を把握することができる。 3. 音楽療法で用いられる主要な楽曲を知り、適切な使用方法について理解することができる。

ディプロマポリシー			
	土台となる力：学力（基礎教養、専門領域に関する知識、技能）。	生きる力：問題解決能力（自ら課題を発見し、解決する能力）を有すること。	つながる力：コミュニケーション能力（他者への寛容さ、論理的・芸術的表現、他者との協働性）を有すること。
選択	○	○	◎

ディプロマポリシー（専攻1）						
	土台となる力：栄養士・栄養教諭として必要な知識を有すること。	土台となる力：栄養士・栄養教諭として必要な調理技術・計算能力等の技術を有すること。	生きる力：栄養・健康問題において自らの課題とその解決策を見つけ、行動変容する力を有すること。	生きる力：自らがキャリア開発に努め、食べ物を通して健康づくりに携わる力を有すること。	つながる力：健康づくりを支援する諸活動に積極的に参加し、それぞれの対象特性に応じた関わりを行う力を有すること。	つながる力：栄養指導・栄養教育において、円滑なコミュニケーションを図る力を有すること。
選択	△	△	○	△	○	○

ディプロマポリシー（専攻2）						
	土台となる力：就学前教育に携わる者としての必要な知識（教育学、心理学などの知識）を有すること。	土台となる力：就学前教育に携わる者としての必要な技能（音楽、造形、運動などの技能）を有すること。	生きる力：教育実践において、自ら課題とその解決方法を見つけ、解決に当たる力を有すること。	生きる力：自らのキャリアを開発し、社会において自らの力を役立てを有すること。	つながる力：こたば、音楽、造形、運動・遊びを通じて子どもとつながる力を有すること。	つながる力：子どもを取り巻く様々な他者（保護者、同僚、地域）とつながっていくためのコミュニケーションスキルを有すること。
選択	○	○	○	○	◎	○

講義計画

回	内容
第1回	ガイダンス、音楽療法の概観 授業の目的と内容を理解する。音楽療法の概観について学ぶ。
第2回	音楽療法の定義 日本における音楽療法の定義と、諸外国における音楽療法の定義の共通点と相違点を理解し、音楽療法とは何かを学ぶ。
第3回	音楽療法の歴史 日本における音楽療法の発展と、諸外国における音楽療法の歴史について学び、音楽療法の発展してきた背景を理解する。
第4回	音楽の特性と機能 音楽療法において重要視される音楽の特性と機能について学び、音楽療法において音楽をどのように捉え、使用するべきか学ぶ。
第5回	音楽療法のスタイル 能動的音楽療法と受動的音楽療法について学び、日本と諸外国における音楽療法の多様なスタイルとアプローチを理解する。
第6回	音楽療法の治療過程 アセスメント、目標設定、プログラミング、実践、記録と評価という五段階に分けられる音楽療法の治療過程について理解する。
第7回	音楽療法のアセスメント、目標設定の方法 音楽療法の代表的なアセスメントについて学び、アセスメントを基にした長期目標、短期目標の立て方について理解する。
第8回	小児領域の音楽療法の実践 小児の基礎的な発達段階を理解し、小児病院や療育施設等における音楽療法の実践について理解する。
第9回	成人領域の音楽療法の実践 精神疾患のある人や障がいのある成人に向けた音楽療法について、理論と実践を学ぶ。
第10回	高齢者領域の音楽療法の実践 高齢者における心身の機能について理解し、認知症や脳血管障害をもつ高齢者に対する音楽療法について理解する。
第11回	音楽療法の記録、評価法 音楽療法の実践における記録と評価の方法について理解し、基礎的な記録の方法について練習し、体得する。
第12回	音楽療法とチームアプローチ 音楽療法の関連領域である他の芸術療法や、連携することの多い作業療法等の他職種について学ぶ。
第13回	音楽療法の研究 国内外の音楽療法の量的研究、質的研究の代表的研究について学び、現在の音楽療法における研究について把握する。
第14回	音楽療法士の倫理観・資質 日本音楽療法学会における倫理規約を学び、実践及び研究における基礎的な倫理について理解する。
第15回	まとめ グループディスカッション 学生一人ひとりが関心のある音楽療法の手法や対象領域について発表し合い、お互いの意見を共有する。

講義の目的・概要	本講義では、ディプロマポリシーにおけるつながる力：コミュニケーション能力（他者への寛容さ、芸術的表現、他者との協働性）を習得することを目的とする。音楽療法の定義や歴史的背景を学びながら、音楽療法の基本的な考え方やアプローチについて理解する。また、多岐に渡る音楽療法の対象者の特性やニーズを把握し、国内外で発展してきた音楽療法の様々な手法に触れて、音楽療法の概観を学ぶ。音楽療法の実践、評価、研究、倫理について理解を深める。
事前/事後に受講してほしい講義	事後に受講してほしい講義：生コミ学特殊講義Ⅳ（音楽療法各論Ⅰ）、生コミ学特殊講義Ⅴ（音楽療法各論Ⅱ）
学習評価の方法・基準	定期試験（筆記）（50%）、実技（20%）、レポート（20%）、授業への参加度（10%）を総合評価する。評価到達目標1、2に関して、基礎的な概念の理解と音楽療法のアプローチの理解を確認する為に定期試験を行う。到達目標3に関して、対象者に合わせた音楽の使用法の理解を確認し、レポートリを増やすための実技課題に取り組み、習熟度を評価する。 到達目標1、2、3に対応し、レポートとその発表で、音楽療法への基礎的理解と自主的な学びを評価し、授業への参加度に関しては、グループワークでの貢献度や実技に関する積極的な取り組みを評価する。 課題に関するフィードバックとして、発表や実技に関しては、その場で適切な表現に関して指摘し、レポート等においては次回の授業で特徴的な見解や学生の優れた回答をクラスに紹介する。
教科書・テキスト	古賀幹敏編 江口奈々子 中垣美子 宮本幸著『基礎から学ぶ音楽療法』海鳥社 2018年 ISBN978-4-86656-023-6 2,000円（税抜）
参考図書・指定図書	W. B. デイビス、K. E. グフェラー、M. H. タウト編、栗林文雄訳「音楽療法入門Ⅰ ー理論と実践ー 第3版」一麦出版社 2,800円（税抜） W. B. デイビス、K. E. グフェラー、M. H. タウト編、栗林文雄訳「音楽療法入門Ⅱ ー理論と実践ー 第3版」一麦出版社 3,800円（税抜）
その他	なし
オフィスアワー	A211研究室 毎週木曜日4限目（14：40～16：10） または昼休み（12：10～13：00）

講義外学習の指示

シラバスを読み、授業内容をあらかじめ確認しておく。毎回、授業後に次回の教科書の学習内容を提示し、授業外で毎回2時間程度積極的に学習を進め、予習・復習する姿勢が望まれる。毎回提示された学習課題又は実技課題に取り組み、次週に提出あるいは発表する。



✕ ウィンドウを閉じる